

# いわかげ

— No. 127 2012, 8, 31

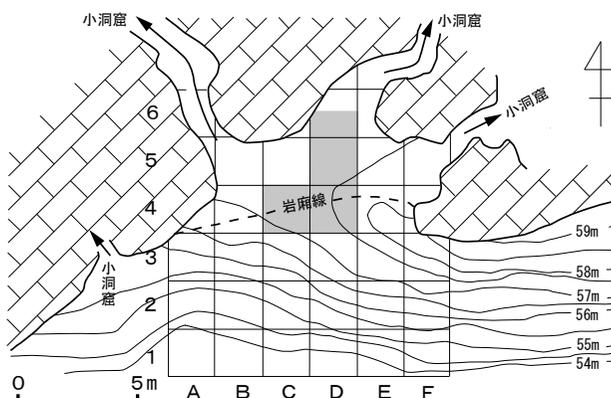
広島大学文学研究科考古学研究室・  
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2012 年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 Ⅲ期 (8月25日～31日)

## 帝釈大風呂洞窟遺跡第17次調査Ⅲ期

帝釈大風呂洞窟遺跡は1996年から調査が開始され、今年で17回目を迎えます。今回の第17次調査はお盆を挟んで8月3日～31日まで行いました。今年は主にD-5区、D-6区の調査を行い、遺跡がどのように使用されていたか、また遺物がどのような分布をしているかなどについて調査



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

しました。今年の発掘調査は夕立にあうことも何度かありましたが、全期間を通して天候に恵まれ、スムーズに発掘調査をすることができました。

D-5区では縄文時代前期から後期にあたる3層の掘り下げを行いました。2008年度の調査で検出されていた炉跡と思われる焼土面を掘り下げていった結果、その焼土面の下位や東側から新たな焼土が広がっていることが確認できました。また焼土の南側では、焼土とほぼ同じ高さでシジミが50個近く1ヶ所からまとまって出土し、さらにサヌカイト製の石鏃や剥片もいくつか一緒に発見されました。これは当時の生活状況を生々しく示していると言えます。このシジミが集中して見つかった所の南側からは、同一個体と思われる縄文土器片が数点出土しています。

D-6区の調査は今年度から新たに始められ、今回の調査では古代・中世にあたる1～2層の掘り下げを行いました。1層は動物骨のみの出土でしたが、2層からは鎌倉時代～室町時代のもと考えられる土師質土器片が、大きなものから小さなものまでを合わせると60点を超える数が出土しています。この中には、いくつか接合できるものも確認されています。ま

た動物骨や貝類も大量に出土しました。動物骨の中には焼けたものもいくつか見つっています。南側のD-5区ではこれまでに古代・中世の炉跡が何基か検出されており、今回の発掘調査で見つかった焼けた動物骨との関連性をうかがうことができると考えられます。今回の調査ではD-6区での遺構の検出には至りませんでした。出土したこれらの遺物は当時の人々の様子を考察していく上で非常に重要な手掛かりとなっていきます。



第2図 帝釈大風呂呂洞窟遺跡調査風景

今回の調査ではD-5区、D-6区の両方から多くの土器片、石器、動物骨、貝類などが出土しました。これらの出土した遺物を大学に持ち帰り、一つ一つ詳しく調査して、D-5区、D-6区の当時の生活状況や使用状況などの考察を行っていきます。(3年 林美和)

#### コラム1 待ちに待った発掘調査

私は考古学を専攻していた叔父に憧れて、広島大学の考古学コースに進学しました。そして、ついに今年考古学の醍醐味である発掘を経験しています。小学生の頃地元で行われている発掘体験に参加したことはありましたが、本格的な発掘調査に参加するのは初めてでした。大学では、事前に帝釈峡遺跡群についての勉強会を行ったり、先輩方から道具の使い方を教えていただいたりしながら発掘の準備をしてきました。いざ発掘の前夜となると、とてもわくわくする一方で、自分にもきちんと調査ができるのだろうかという不安の気持ちがつのりました。しかし、実際に発掘現場に行くと、先輩方の優しく丁寧なご指導の下、楽しく発掘調査を進めることができている。調査には大変な事もありますが、遺物ができたときの喜びは格別で、すぐに疲れなど飛んでいきます。今はまだ分らないことだらけで、迷惑を掛けてばかりですが、多くのことを経験して以降の調査につなげていきたいです。

(2年 北之園直哉)

#### 佐田峠墳墓群第6次調査

佐田峠墳墓群は庄原市宮内町に所在している弥生時代中期の終わりごろから後期の初めごろにかけての墳墓群です。東方の隣接した丘陵上には、ほぼ同時期に営まれた佐田谷墳墓群

が存在しており、両者は一連の墳墓群  
であると考えられています。

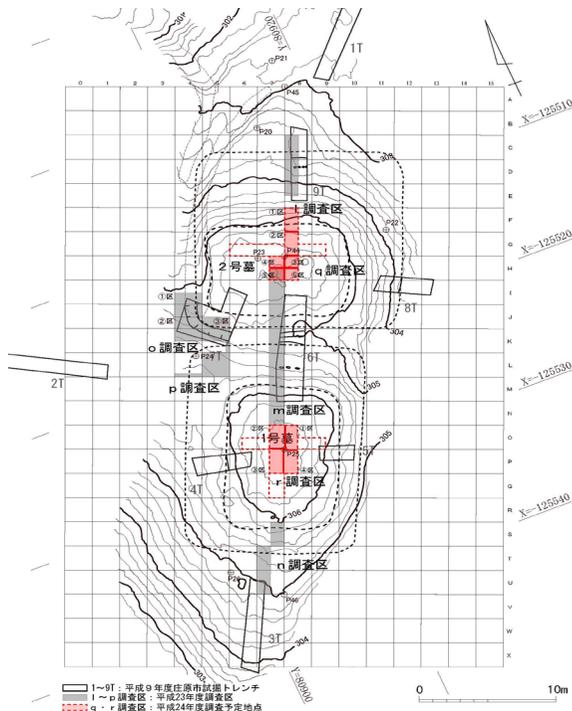
これまでの調査によって、両墳墓群  
内には石を貼り込まない四角い墳丘を  
持つお墓である佐田峠1号墓・2号墓  
や、配石構造をもち墳丘の四隅が突き  
出すタイプの墳丘墓である佐田谷1号  
墓や佐田峠3号墓・4号墓、そしてお  
墓の周りに溝をめぐることで墓域  
を区画している佐田峠5号墓などが見  
つかっており、佐田峠・佐田谷墳墓群  
は同じ墳墓群内に時期の近い多様な形  
態を持つ墳墓が併存している大変興味  
深い遺跡であることが分かっています。

今年度の調査では、佐田峠墳墓群内  
にある1号墓および2号墓の調査を行っ  
ています。両墳墓は昨年度までの調査によ  
って、墳丘裾部分の構造や墳丘の大き  
さが明らかにされています。お墓の営  
まれた時期については出土した弥生土  
器の特徴から、弥生時代後期の早い  
段階と考えられており、同墳墓群内  
の佐田峠3号墓・4号墓・5号墓より  
も新しくなることが分かっています。

今年度は佐田峠1号墓・2号墓の墳  
頂部周辺の調査を行って墓穴の場所  
を探り、その配置とつくり方から、  
墳墓群内における墳墓の構造の変  
化を追うことに努めています。

現時点では土器などの遺物は出土し  
ていませんが、1号墓・2号墓ともに  
墳丘の頂上部で20～30cm大の石が  
見つかっています。この石は、墓穴の  
目印あるいは葬送儀礼の道具として  
使用された可能性もあり、今後の調  
査を行う上で注目されます。

発掘はまだまだ始まったばかりで  
す。ムカデに咬まれたり作業中に急  
な夕立に降られるなど、フィールド  
ワーク故に起こるハプニングもあり  
ますが、それは同時に自然と隣り合  
わせたフィールドワークの醍醐味で  
もあります。9月に入ってから調  
査を引き続き行っていき



第3図 佐田峠墳墓群調査区配置図



第4図 佐田峠墳墓群1号墓調査風景

ますので、さらなる成果をご期待ください。(3年 山本晃弘)

## コラム2 3年生としての自覚

Ⅲ期からいよいよ佐田峠墳墓群の発掘調査が始まりました。宿舎の朝はとても涼しいですが、現場はまだまだ暑く毎日多くの汗をかいています。今年は3年生として調査の主体となって行動しないといけないのですが、調査区の設定をするのに必要な機械であるトータルステーションの設置に手間取ったり、水糸を張るのに苦戦したりしています。更に食事当番の時もろくに料理が作れないので、食器を洗ったり配膳をしたりといった誰でもできるようなことでしか力になれず他の当番の人の負担を増やすことになってしまい3年生としては非常に頼りないなと感じています。発掘調査はⅣ期、Ⅴ期と続くので院生さんに頼るだけでなく自分で考え積極的に行動することを心がけ、2年生を引っ張っていけるようになればと思います。

(3年 戸川貴大)

## 初めての発掘調査に参加して

四月から考古学教室に入って発表や実習の授業などで多くの考古学の知識や様々な遺物に触れることができましたが、屋外で行う発掘調査とはどのようなものだろうと思っていました。そんな中、私にとって初めての発掘調査が1日目の除草作業から始まりました。体力のない私には少しつらかったですが、ここでくじけては何も学ぶことができないと思って何とか頑張りました。2日目は1日目に引き続き清掃から始まり、そしてレベルという測量器材を使った本格的な作業に取り組みました。実習で何度か触れた道具だったのですが、いざ本番で使ってみると少し手が震えました。ここで責任を持って調査をするということが身を持って実感できました。3日目、ついに掘削作業に入りました。4日目以降ここから何を発見することができるのか楽しみにしています。今、私にとって始まったばかりの発掘調査。学べることを学べるだけしっかり学んで自分の今後の研究のために生かしていきたいと思えます。

(2年 大嶋健介)

## 人物往来

8月26～28日 熊本大学埋蔵文化財調査センター 石丸恵利子さん

8月28～30日 香川大学教授 丹羽佑一先生

〃 大朝野和さん  
8月29日 広島大学大学院文学研究科 M2・広島大学文学部 4年生  
8月26～30日 庄原市教育委員会 辻村哲農さん

#### 参加者名簿（第Ⅲ期 8月25日～8月30日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀  
〃 准教授 竹広文明  
〃 〃 野島永  
〃 大学院生 藤井雅大・松永直輝・村田晋 (M1)  
広島大学文学部学生 赤木智香・上利碧月・川添敦史・戸川貴大・林美和  
三輪剛史・山本晃弘 (3年生) 浅井美雪・大嶋健介  
北之園直哉・古久保茜 (2年生)

#### 陣中見舞い

・丹羽佑一先生	飲料・讃岐うどん・お菓子	・弥生食堂さん	野菜
・大麻ゆかりさん	お米	・石丸恵利子さん	お菓子
・赤木さんご両親	栄養ドリンク	・岡友希子さん	お菓子
・M2・4年生一同	果物・飲料・お菓子		

#### 編集後記

帝釈大風呂洞窟遺跡の本年度の調査が無事終了しました。これも地元の皆様のご支援の賜物です。本当にありがとうございました。本年度は出土遺物も多く、大学に持ち帰って詳しく調べます。私たちの調査はまだまた続きますが、とりあえず一区切りです。

また、Ⅲ期からは佐田峠墳墓群の調査がはじまりました。本年度の調査では、佐田峠1・2号墓の埋葬施設の確認を目標に調査を行っています。9月中頃まで調査を行っておりますので、よろしく願いいたします。

来年度からは今年の成果をもとに、さらなる調査に励みたいと思っております。来年度の調査もよろしく願います。  
(編集 藤井・松永・村田)

広島大学考古学研究室	〒739-8522	東広島市鏡山1-2-3(Tel: 082-424-6663)
帝釈峽遺跡群発掘調査室	〒729-5554	庄原市東城町帝釈未渡野田原(Tel: 08477-6-0101)
研究室ホームページ URL	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko">http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko</a>	